

野田中学校の先生方の年齢構成をみると、経験豊富な方が多い。一方、20代、30代というの少ない。市内の学校では、同様の状況であろう。職場には若者が必要である。先輩教員が若手に教えながら、共に成長していくのがよいと考えている。そうしないと教師文化の伝承はおぼつかない。

本校の20代はというと、3年目のH先生、2年目のSS先生、初任者のYT先生、そしてもう一人がSS先生とは別のSS先生である。

もう一人のSS先生のお父さんのことは昔から知っている。なぜなら、大学時代のソフトテニスの私のペアだからである。4月から私の友人の息子さんが野田中学校に来たというわけである。偶然だろうか。そうかもしれない。だが、とてもそうだとは思えない。やはり必然であろう。

私としては、私の友人の息子さんを預かっている感覚である。責任をもって育てなければならない。そう思っている。

私は大学までソフトテニスをやっていた。この競技は、今はシングルスもあるが、もともとペアで行うものであり、現在でもペアが主流である。私は、体が小さく、運動能力もなく、パワーもない。そこで考えた。頭を使うしかない。そして、ペアに決めてもらうしかない。私がお膳立てをしてペアが決めるのである。

高校時代も大学時代も、この構想、戦略でやってきた。試合で勝つためにはそうするしかなかった。幸い、ペアに恵まれた。大学時代に私の配球により上がってきたチャンスボールを次から次へとスマッシュで決めてくれたペアが、もう一人のSS先生のお父さんである。ある意味、私の恩人である。

恩人のお子さんが、私の職場にいるのである。立派な教員に、頼もしい若者に育てるのは私の責務であろう。そう思っている。今年度は、20代の前途有望な若者が4人になった。まだまだ少ないが、先輩教員にとってもよい刺激となっている。生徒からしても、いろいろな年代の先生と接したほうがいだろう。

もう一人のSS先生も、これからこの校長室だよりに登場することになるかもしれない。そこで考えた。JS先生にしよう。Jはジュニアである。

今年度は、今まで以上に試されている気がする。金山町からの預かりもの、友人からの預かりものがある。大事な大事な預かりものである。もしかしたら、若者の人生に大きく関わることになる。いや関わらなければならない。それが私に課せられた使命である。